

平成21年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第5号

平成21年3月4日(水曜日)

議事日程第5号

平成21年3月4日(水曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 29名

出席議員 28名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	笠原幸江君	4番	渡辺重雄君
5番	中村実君	8番	田原実君
9番	五十嵐哲夫君	10番	五十嵐健一郎君
11番	保坂良一君	12番	高澤公君
13番	倉又稔君	14番	久保田長門君
15番	大滝豊君	16番	斉藤伸一君
17番	伊藤文博君	18番	伊井澤一郎君
19番	鈴木勢子君	20番	猪又好郎君
21番	古畑浩一君	22番	山田悟君
23番	池亀宇太郎君	24番	大矢弘君
25番	松尾徹郎君	26番	畑野久一君
27番	野本信行君	28番	関原一郎君
29番	新保峰孝君	30番	松田昇君

欠席議員 1名

7番 平野久樹君

## 説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	栗林	雅博君
収	入	役	倉又孝好君	総務企画部長			本間	政一君
				総務課長事務取扱				
市民生活部長		小林	清吾君	建設産業部長			渡辺	和夫君
総務課長補佐		田原	秀夫君	総務企画部次長			織田	義夫君
				企画財政課長				
能生事務所長		池亀	郁雄君	青海事務所長			七沢	正明君
市民課長		金平	美鈴君	福祉事務所次長			森	正人君
市民生活部次長		小林	忠君	商工観光課長			田鹿	茂樹君
健康増進課長								
農林水産課長		早水	隆君	建設課施設維持係長			伊藤	輝夫君
新幹線推進課長		岡田	正雄君	ガス水道局長			細井	建治君
消防長		吉岡	隆行君	教育長			小松	敏彦君
教育委員会教育次長		山岸	洋一君	教育委員会学校教育課長			渡辺	千一君
教育総務課長								
教育委員会生涯学習課長				教育委員会文化振興課長				
中央公民館長兼務		渡辺	辰夫君	歴史民俗資料館長兼務			山崎	弘易君
市民図書館長兼務				長者ヶ原考古館長兼務				
勤労青少年ホーム館長兼務								
+	監査委員事務局長	結城	一也君					

## 事務局出席職員

局	長	神喰	重信君	副	参	事	猪又	功君
主	任	主	査	松	木			

午前10時00分 開議

議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、平野久樹議員であります。

なお、倉又収入役は、午前中欠席であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、11番、保坂良一議員、26番、畑野久一議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

きのうに引き続き、通告順に発言を許します。

高澤 公議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔12番 高澤 公君登壇〕

12番（高澤 公君）

おはようございます。

新生クラブの高澤です。よろしく申し上げます。

1、全国学力・学習状況調査の分析と対策についてとして一般質問を行います。

2007年4月、43年ぶりに全国学力テストが実施されました。その間、データの蓄積のないまま紆余曲折してきた教育方針により、かつて世界一だった学力が現在は低迷の限りであります。データがなく目標を失った教育により、学力ばかりか相対的な学ぶ力も低い位置にあります。2007年・2008年と実施し、ことしも4月に行われますが、1日も早い教育力の回復が望まれます。そこで市に以下のことを伺います。

- (1) 学力・学習状況調査の分析結果は。
- (2) 市の教育方針として今後の目標は。
- (3) 学力・学習状況調査結果の公表についてはどうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

おはようございます。

では、高澤議員のご質問にお答えをいたします。

1点目の学力調査の分析結果ですが、市教委といたしまして小中学校ともに各教科、領域別、問題別に分析し、その結果を資料にまとめ各校へ配布、説明をいたしております。

市内の小学校6年生及び中学校3年生では、国語、算数・数学ともに知識の定着に比べ、活用に課題が見られたところであり、この結果分析を通して児童生徒の活用・応用力の習得を図るために、各校へ改善の方法を示しております。

また、学習状況調査については、学力と相関関係が見られた主な内容としまして、小学校では休日の家庭学習、テレビやゲームの時間等が課題となっております。

中学校では、それに加え基本的な生活習慣、携帯電話、あるいは積極性や自己肯定観の育成、読書等が学習課題となっております。

2点目でありますが、市の教育方針としまして糸魚川市学校教育の大綱に示しております。とりわけ学力向上については、基礎的・基本的な知識、技能の習得と活用する力を身につけさせる授業の実施を目標に掲げて、取り組んでいるところでございます。

今後の目標については、小学校では今年度の調査結果を維持しながら、活用する力をさらに伸ばすこと。中学校においては基礎的・基本的な知識、技能の習得を確実に図り、県、全国平均を上回ることを目指しております。

3点目の結果の公表につきましては、当市では基本方針として文部科学省の方針に基づいて行っており、市全体の調査結果を、この分析を踏まえた今後の改善策とあわせて各学校へ示し、また、文教民生常任委員会での報告を通して公表をしているところでございます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長からの答弁もありますので、よろしくお願いを申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

ざっと説明をいただきました。細かいことについて、伺ってきたいというふうに思います。

学力の方は少し後に回して、子供たちを取り巻く環境、特に教育環境というところでは、いろいろな問題が出てくるというふうに思います。それで学力調査、学習状況調査のときにあわせて、人的条件、あるいは物的条件というふうなものも調査対象になっていたかと思うんですが、糸魚川の教育における人的条件というものの分析はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

人的条件ということでございますが、教員配置というふうにとらえさせていただきますと、教員配置はどちらかというと若手の先生とベテランの先生が多くて、中堅の先生が少ないというような配置状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

中堅の先生がいらないということは、どういう分析をしとるかということなんですよ。状況でなくて、そういう状況を踏まえて、どういう分析をしとるかということをお願いいたします。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

中堅の教職員が総体的に見て少なくて若手が多いということは、やはり経験年数が少ないものですから、どうしても指導に若干の差が出てくる、こういうふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

それでは、そういうふうな分析をしとるということですから、それにしときますが、物的条件ということになると、どういうふうな問題が出てきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

物的条件ということですが、教育環境でございますので、1学級に在籍する児童生徒の人数であるとか備品等、そういったものが考えられるかと思えます。

こちらの方は各学級の人数につきましては、小学校においては、かなり少人数の小学校が多いということになりますし、そのほかの備品類につきましては、これは他の市町村と比べても、それほど劣ることはないだろうと、同じだろうというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

そうすると、大きなところは学校の建物を含めて、細かいところまで入れて、物的条件というのは、ほかの地域に劣るところはないだろうというふうな見解であるということですね。

そうすると、次に指導方法、今までの指導方法、あるいは学力向上に向けたような形の指導方法というのは、今までよかったのか悪かったのか、これからどうしなきゃいけない、そこら辺はどうです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

議員の方でご指摘いただきましたように、文科省の方針が学習指導要領の改訂のたびに少しずつ変わってきております。ある一時期は、児童生徒の自主性を尊重するということがかなり前面に出まして、現場でそれを尊重し、どちらかという教えるべきことまで、子供たちに考えさせるとい

うような風潮がございました。そういったあたりを、やはり改めていく必要があるだろうと考えています。教えるべきことはしっかり教える、身につけさせるべきことはしっかり身につけさせる、あわせて考えさせる場面もしっかり設ける、そんなふうな授業を展開していく必要があると、こんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

それでは先ほど教育長の答弁にも少しありましたが、子供たちの生活実態というものについて、ゲームをやっているとかがどうかという話が教育長の方からありましたが、生活実態についてはどのように分析をしているか。その生活が子供たちの学校生活、あるいは学力というものにどういうふうに絡んできているか、そこら辺の分析はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

生活実態、家庭での時間の使い方ということになるのかと思います。調査の結果では、家に帰ってテレビゲームをするだとか、携帯電話等々に時間を使っているだとか、そういったことと学習の正答率に負の相関。簡単に言うと、家に帰ってしっかり学習をしている子供たちの正答率が高いというようなことが、この調査からも明らかになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

それでは保護者の方が、いわゆる全国一斉学力テストというものについてどうだとか、あるいはそれ以外にふだんの学校生活の中でどうしてもらいたい、ああしてもらいたいというふうないろんな意見があると思うんですが、保護者の方については、どのような意見集約をしていますか、保護者の意向といえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

申しわけございません。市の教育委員会として、直接保護者から意見を伺ったことがございませんので、はっきりしたことは申し上げられませんが、かつて私が現場にいたとき保護者から聞いた話で申しわけございませんが、そちらでお願いしたいと思います。

どんな子供に育てほしいかということで保護者に聞きますと、やはり心豊かな子供にしてほしい、他人に迷惑をかけないとか、そういった部分が、まず第一にまいります。その次に勉強ができ

る、あるいは運動ができる、そういうふうなことを保護者としては求めているということでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

ただいま課長から申し上げましたように、学力調査についての保護者の方々からのリファレンスといいますが、意見集約というのは、直接、教育委員会としては行っておりません。ただ、さまざまな内容については、それぞれ学校から保護者の方々に機会を見てはお伝えをいたしております。

その結果かどうかということは確証はないんですけれども、それぞれのPTAの中で一定の活動として、この日はテレビを見ない日、あるいはゲームは何時までにする日と、そういったようなPTA全体としての取り組みの活動も各校で見られるようになってきております。

また、親御さんで児童生徒を話をして1日ゲームは何時間というような、そういった設計をなさっているという、そういう活動を進めているPTAもあるかと思えます。そういったことで、こういった調査の結果について、保護者の方々も一定の理解を持ちながら、学校の中で、そういった協力体制というのは敷かれているのではないかと思います。

また前段、教育の児童生徒の学習に対する基本的な、健康の問題もあるわけですが、やはり早寝早起き、朝御飯というものを、各家庭に定着をお願いしたいということで話をしておりますし、また、PTAの活動としても、そういった運動に取り組んでいただいているところであります。そういった形で地域、あるいは保護者の方と、この学力調査だけではございませんけれども、学校教育の中でそういった地域の協力というのは今後を進展していただけるものと、このように期待しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

そうすると、また後で細かく聞きますが、当系魚川市の小中の学力というものは、どのように分析をされましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

正答率で、まず分析をさせていただきました。県、あるいは全国との比較という形で分析をかけているわけですが、先ほど教育長の答弁にもございましたが、小学校については国語、算数とも県、あるいは全国を上回っている実態であるということでございますし、中学校については国語が全国よりやや下、算数についてはもう少し下で大きな課題があるなど、こんなふうに分けております。そのほか、それぞれの教科の領域別にも分析をかけているところでございます。

あわせて、今回の全国学力・学習状況調査につきましては、A問題、主に知識を問う問題と、B

問題、活用をする力を問う問題がございましたが、活用する力の方に大きな課題が残っているというふうに分析をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

中学校の方の答案の中に、無回答率というのはどのくらいありましたか、ありませんでしたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

無答率、もちろん出ております。今、問題別にその無答率が出ておりますので、トータルでどのくらいあったかという、そこまで出しておりませんので申しわけございませんが、特に国語の全体を要約してまとめて記述する問題であるとか、数学の論証について無答率が高かったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

無答率というのは非常にこれ問題のあることなんですよ。それでテストやってから、もう1年近くたってるわけですよ。それなのに、まだまとめてないというのはどういうことなんですか。まとめてないというのは、どういうことなんですか。全体に無答率はどのくらいあるんだということを言えないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

申しわけございません。トータルとしての無答率というのは出してないということで、個々の問題ごとには無答率というのは出ております。

12番（高澤 公君）

それをちょっと言いにくい。

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

申しわけありません。今、手元の資料にございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）



私はそういうことで質問しますよということで、議会初日に出しておるんですよ。そういう大事な資料を持って来ないというのはどういうことなんですか、それは。無答率というのが多けりや多いほど、教育の実態が出てくるという一番大事なことなんですよ。その資料をそろえてないというのは、どういうことなんですか、これは。

人的条件では、やや指導力が劣るというふうな回答、物的条件では、ほかの地域と比べても落ちてはいないという回答。そうすると学力が下がっていくというのは、まさに人的条件にかかってくるわけで、学校の指導力という部分にかかってくるのではないかというふうに思うんですが、指導力という部分では、やはり落ちているというふうに自覚しておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

指導力が他市、あるいは他県に比べて落ちているかというご質問かと思います。決して高い、負けてないんだと言いたいところなんです、現実、成果が出ていませんので、そういう部分もあるんだろうというふうに認めざるを得ない部分がございます。

あわせて学力は教師の指導力に負うところが大きいわけですが、先ほどお話もございました各家庭での生活の仕方、家庭学習、そういったこととの相関も、かなり強いものがあるだろうというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

私は教育問題で平成17年と19年にやってるんですよ。そのときに17年のときも長谷川課長の答弁では、中学校の学力が小学校に比べて落ちている。そのときでは、ここ2、3年はそういう状況ですという話だった。私は合併前から、そういう状況が続いているというふうには理解しとったんですが、それが今まだ中学校の方が落ちてるということで直っていない。10年も十何年も前から課題が直ってない、全然直ってないんですよ。直ってるどころか、悪くなっているんじゃないかと私は思ってるんですがね。

それと先ほど課長の答弁で、保護者の意見というのは、あんまりつかんでいないというふうに言っておりますが、平成19年の月岡課長の答弁では、各学校で年3回の学級懇談会を開いてる。そういうふうにやってるのに、保護者の意見を吸い上げることできないんですか、どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

各学校では今ほどご指摘いただきましたように、学級懇談会、あるいは地区懇談会等をやって、保護者の意見を吸い上げているのは存じております。それを教育委員会まで、どういう意見が出たかということ報告してもらおうというシステムが、今のところできておりません。今後、検討させ

ていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

各学校ごとにやってる、私ら知りませんということで、あんたその仕事を全うしとると思いますか。どうですか。各学校では年3回ずつやってます、しっかりやってます。教育委員会はどのくらいですか、教育長、どうしてそこら辺の把握ができないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

それぞれの各学校、いろいろな課題があると思います。そういったことで各地域の中での保護者との対話、あるいは意見聴取というのは、これは現実に日常的に行われていることだと思います。

ただ、そのことを確かに教育委員会として、どういうふうにとらまえていくのか、その辺のシステム化がなかれていなかったということにつきましては、反省をさせていただきたいと思いますし、今後そういったシステムについて構築を検討してまいりたいと、このように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

私、先ほども言いましたが、中学生のレベルが下がっているというのは、もう十何年も前から話なんですよ。そういう問題をしっかりとらえていけば、やはり学校教育課長の方でしっかりと全体のことをまとめていかなければ、だめなんじゃないかな。そのために、今まで43年間もやらなかった学力テストを始めてるんじゃないですか。全く私は話にならんと思いますよ。

市長にお伺いしますが、市長はこの糸魚川市の小中学校の学校の状況、特に学力の状況というものをどのように報告を受けておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の現状では、詳細なものはいただいております。大枠でしかない報告を受けております。

12番（高澤 公君）

大枠でどのくらいなんです。

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどお答えしたように、全国的に見た各教科の劣ってる、すぐれてるというくらいの大枠でござ

ざいます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

市長がその程度の認識だから、そうだろうというふうに私は納得しますよ。

教育長は、どういうふうに市長に報告するんですか。きちんと細かく報告しないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

議会におきまして文教民生常任委員会に報告した、その内容のデータをもとに、その概略を市長には報告しておりますが、本当に個別のデータについて市長に提示したことは、私の知る限りございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

この資料、これは先日、課長からいただいた資料ですよ。課長もこの資料を持つとるはずなんです。これから分析していくと、いろんなことがわかる、私なりにやってみました、私なりにですよ。

糸魚川市の小学校の平均点数、それはここには全国の平均点数が載ってますから、都道府県の、小学校の平均点数は全国でどのレベルにあるんだ。課長、やってみましたか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

どこまで分析できるかということなんですが、新潟県がここにあります。そこに糸魚川市の平均を私も入れてみまして、全国のどの県とほぼ同じぐらいなのかということはやってみてあります。

12番（高澤 公君）

どのぐらいなの。

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

小学校の方、今年度、国語A、知識を問う問題でございますが、全国の県でいいますと5番ぐらいでしょうか、それから国語Bについては13番ぐらいでしょうか。算数Aについては12番、算数Bについては17番でしょうか。

中学校の方はこれがよくなくて、国語Aでは39番ぐらいでしょうか、それから国語Bでは35番、数学Aでは44番、数学Bでは40番でしょうか、そんなふうに見ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

そういう分析をしていながら少し悪い、やや悪いというような表現しかしてない。いいですか、全国学力テストというのは、数字でもってみんなあらわれるんですよ。それを2年間やってきて、やや悪いです、どうです、そういう答弁ばかりしとるんですわ。

はっきり言って、小学校は大体10番ぐらいですよ、全国の上から10番、47都道府県の、中学校は市長、47都道府県の40番ですよ。じゃあ小学校の10番と40番の間に、30番の差があるんですよ。小学校が頑張っていて、中学校で何でそんなに落とさなきゃいけない。その落ちた原因というのはどこなんですか、それをつかんでいるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

小学校が比較的よくて、中学校になるとなぜ下がるのかという件でございますが、今回の学力・学習状況調査の質問肢の回答の結果から分析をかけております。テレビゲームの時間、家庭学習の時間、ここらあたりが全国に比べてテレビゲームの方は多いし、家庭学習の方は少ないしということのデータが出ております。これは小学校の方は全国平均とほぼ同じか、それより上というような状況ですが、中学校はがくっと下がっているという状況でございますし、加えて学校へ行く前日に持ち物をしっかり確かめるかとか、授業の予習、それからテストで間違えた問題を再度やり直すというあたりが、全国からかなり落ち込んでいるという結果がわかりました。各中学校に、このあたりをしっかりと指導するよう指示したところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

これは過去十数年にわたってそういう状況が続いてきて、この一斉学力テストというのがないときには、あなた方は上手に答えて、その実態をはっきり我々に伝えなかった、玉虫色の答えを出して伝えなかった。我々にすれば、そういうものを信用して、まあまあかなというふうにおったんですわ。結果が出てみたら、これですよ。とんでもない話だ、情けない話ですよ。

それで、先ほど保護者の意見というのはどうですかと言いましたが、保護者の中には、もう学校に預けてもだめだわという意見がある。また、もう1つには、どうして宿題を出してくれないんだろう、そういう意見は前からあった。宿題を出す手間をあなた方は惜しんで、そういう学校じゃだめですわ。

それと今話を聞くと、学校・保護者・地域、これがPTAですわね。私はそれよりも、市と教育委員会と学校の連携の方が大事なんじゃないかなと思いますよ、それを全然やってないんですよ。

う。教育長からもはっきり報告が行ってない、各学校のデータも教育課長のところではつかんでない。市と教育委員会と教育長、その連携というのが全然できてない、これじゃだめですわ。それで学校は何かあるとPTAのPの方へ家庭教育をやってくれん、家庭教育をやってくれんと。今までそういう答弁だったんですよ。とんでもない話ですね、これね。

それでずっと19年の月岡課長の答弁では、教育力の低さに対処した動きはどうかという質問に、教職員の資質、指導力の向上に、現在、全力で取り組んでますという答弁があった。全然、全力で取り組んでないんじゃないの。長谷川課長、月岡課長、そのときの問題点というものは、課長、あなたはそういう引き継ぎってしとるんですか、どうですか。どういう答弁をしてきた、どう進まなきゃいけないという答弁をしてきた、そういうものを引き継いでいるんですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

当市の課題については、前課長からもちろん引き継いでおります。

今ほどお話がありました教職員の研修でございます。これまでよりも研修の方につきましてはより計画的に、量的にもふやして研修の機会を市教委として設定をして、教職員に力をつけてもらおうということで、昨年度も今年度もやっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

市長、教育を改善していくということになると、やはり私は金かけんならんとおもいますよ、もう少し。金をかけて少し直していかないと、これはいかなのじゃないかなと思います。そういうふうな予算、投資というのは、市長はどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

今ご指摘いただいている点、そしてまた今、学力のテストの結果などを見る中においては、やはり我々も糸魚川市の子供たちの将来を、またそしてこの学力をどのようにつけていく環境を我々はつくらなくちゃいけないかというのは、非常に大切だととらえているわけでございます。

それが妊娠から18歳までは、しっかり何とか支援していきたいという気持ちでおるわけでございまして、その辺をバランスよくというのが私の考えでございまして、今、高澤議員ご指摘の点についても、そういうことだろうと思うわけでございまして、今までの流れというのは、確かにご指摘のような方向であったと思うんですよ。そういうことで我々はどの辺まで行政が、教育の方に力を注いでいけばいいのかというのは、これから調べていかななくちゃいけない。また、そしてそれに対して、対処していかなくちゃいけないという気持ちでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

中学校の指導力というのは全く落ちている、私はそういうふうに理解しておるんですが、じゃあその指導力の向上に向けて、レベルの高い学校、県、そういうとこと交流をしたり、あるいは交流はなくても研修をしたり、そういう予定というのはどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

教職員の指導力向上のための研修ということでございますが、県外派遣研修という事業がございます。各学校の教職員が、みずから例えば中央の中学校の研究会、そういったところに参加をして、授業を見てくるというようなことをやっております。

それから今年度、初めて実施をいたしました。筑波大学の附属小学校の先生から来ていただいて、田沢小学校の児童を対象に授業を公開していただきました。そういったいわゆる名人と言われるような先生の授業を研修させていただくと、そういう機会も設けております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

人材派遣のようなものは過去にもやっております。毎年やってるわけじゃないんだね、これは毎年じゃないんでしょう。それで私、ちょっと不満なのは、先ほど市長にもう少し金かけてくださいよってお願いしたけども、あなた方の予算は、ほとんど変わっとらんのですよ、ずっと。金かけてくださいというのは、こういう目的で、こういう活動をしたいから、これだけのお金がかかりますという、そういう分析をしてないんでしょう。学力を回復するためには、これだけかかりますという分析しとるんですか。基本的には、全然ふえてない。今までやった事業だけ載っとるだけですよ。

これから学力を向上させるためにはどうしなきゃいけない、そこら辺はどういうふうに分析しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

先ほどの質問にも関連するわけですが、小学校がよくて、中学校になるとなぜ下がるかというあたりでございますが、教職員は校内研修というのをやっております、ご存じかと思いますが、小学校の先生方は共同研究が非常にしやすいわけです。どの先生も国語からすべての教科を教えている

わけですので、お互いに同じ土俵で研究ができるということで、指導力の向上にかなり貢献しているものと考えております。

中学校になりますと、これが教科の専門性があるものですから、なかなか共同研究がしづらいというあたりがございます。その辺で、特に小さい学校につきましては、校内で他の先生から学ぶということが、なかなかできにくいというようなことがございます。そんなことから昨年度、今年度もやっておるわけですが、例えば糸魚川中学校で数学の授業を公開するときに、他の中学校にも案内を出して来ていただいて、一緒に勉強するというような機会を設けていることもございます。

それでもまだ不足でございますので、やはり我々教職員は研修することが義務づけられているわけですので、私的な勉強会をつくるとか、そういったこともこれから進めていかなければいけないなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

そういう意見を聞いとるんでないんだわ。考えておりますとか、やりたいと思ってますでなくて、しっかりと分析して、21年度予算で、あなた方はそういう予算要望をしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

先ほども答えさせていただきましたが、どちらかというとな若手の職員が配置されてるというふうにお答えさせていただきました。新採用1校目、2校目の教職員がかなりおるわけですね。その教職員を対象にした研修を新たに来年度実施しようということで、今計画を立てているところでございます。予算の方も、それで要求をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

保護者というのは、子供に金かかるもんだと思っとるんですよ。あなた方、答弁者だってみんなそうでしょう、子供に金かかるでしょう。けども子供の夢をかなえてやりたい、進みたいところへ出してやりたいということで一生懸命働いて、貯金をしながら子供のために頑張っていこうとやっとなわけでしょう。それがこんなていたらくの成績を出しとる市が、金かけんでどうするんですか。市は今までどおりやるってことなんですか。普通の親は子供のために辛抱して金をためて、子供にかけようと思っとる。市はどうするんですか、この状態、この成績の子供たちを抱えて。若手の研修だけで、それで済むと思っとるんですか、どうですか、教育長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

若手教職員の研修、これは私どもが考えておりますプランの1つであります。ほかにつきましても、学力テストの結果について、重点的な科目についての研修。総体予算というのは確かに、残念ながら財政事情もございまして、なかなかふやすというのは困難な状況にあるわけですが、与えられた予算の中で、今年度重点的にこの教科について研修を組むといった、そういった方策も考えておりますし、また新しい事業としまして、特に中学校なんですけれども、俗に言われる中1ギャップ、その辺の解消につきまして中学校として、じゃあ小学校も含めた中で、そういったものの解消に向けて中学校へ入った段階で、中学校教育のスタートラインに一日も早く順応できるようにスタートできるような、そういった体制ができないかということで現実に研究もしてきておりますし、また、来年度からもう1つの中学校区で、そういった課題に取り組んでまいりたいと、こんなふうに考えています。1点だけではございませぬ、いろんな面でのやはり研究、そういったものが必要でないか、このように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

予算審査特別委員会がありますから、私は今年度の予算についてはあんまり言いませんが、ほとんど変わってないですね。

市長に伺いますけど、これだけ落ちてる系魚川の実態の中で教育委員会が、あるいはこっちの部局の方がしっかりとしたプランを立てて、それにはこのぐらいかかりますと上げてきたときに、市長はその予算を惜しみますか、どうします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、そういった成績を分析する中で、対応をしてくるんだろうと思っているわけでございまして、それに対して、その辺もやはり我々も判断する中においては、ただ右から左というわけにはいかないわけであります。その辺を精査をしながら本当にそれが効果が上がるのか、そういうものを検証しながら、やはり我々は先ほども申し上げたとおり、市内の子供たちの教育というのは大切であるわけでありまして。こういう厳しい時代になればなるほど教育が大切だということを、やはり私は大切に思っているわけでございまして、予算については、やはりできる限りつけていきたいという気持ちでございまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）



市長、ありがとうございます。そういうつもりでやっていただきたい。新潟県発祥の米百俵の精神というのは、そこにあるんじゃないですか。ぜひお願いしたい。

また課長たちもきちんとした理論武装をして、このためにはこういう金が必要なんですよということをやって、どうして予算要望をしないんですか。金がありゃいいっていうもんじゃないんですよ、それはわかりますよ。だけど、本当にいい仕事をしようと思ったら金がかかるでしょう。研修もしなきゃいけない、いい講師も呼ばなきゃいけない、出向いて行くこともあるでしょうし、そういうことをきちんと積み上げて予算要望してもらいたい。そうすることによって、子供たちが少しでも上を目指せるんだったら、我々はもう諸手を挙げて賛成しますよ。そういうことを、今までの予算を見ていくと1つもそういうことをしていない。決められた講習、義務づけられた講習だけしかしてない、それじゃだめですわ。

もう既に全国で学力レベルの低いと言われてる県は、もうかなり具体的に動いとるんですよ。新潟県は何で動かないか、新潟県は平均ぐらいのところに居るからです、全国の中ぐらいのところに居るから、そんなに熱を入れて動かない。だけれども糸魚川は、もう熱を入れて動かなきゃいけない状況になってるんですよ。全国47都道府県の40位ですよ。今からでもそういうことを組み立ててやるつもりはありませんか、どうですか。補正を出してくれば私は賛成しますよ、どうです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

一介の課長がどこまで答えられるかわかりませんが、検討させていただきたいとしか今申し上げられません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

課長の立場では、そういう答弁になると思いますがけれども、ぜひきちんと組み立ててやってもらいたい。ほかのことでいろいろんな形の中で、要するにPDCAサイクルということが言われておりますよね。今は本当はきちんとした分析のもとで、次のアクションを起こすときなんです。改善をしながら、この次のアクションを起こすときなんだ。それを全然やってないように見える。今までどおりじゃだめですよ。本当に真剣になってやってもらわないと、子供は伸びませんよ。

それと目標ということなんですが、目標はやっぱり私は大きい方がいいと思うんですけど、県の標準、あるいは国の標準を上回るようにというふうに言ってますが、北陸の中の福井県は今日本一ですよ。富山県は、1、2、3のそこら辺におさまっている。お隣の県というか、我々の隣のところです。

そこで、いや、ここは全国平均を上回りゃいいわというような目標でしょうか、もう少し上へ目指していく気はないでしょうか、教育長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

総体の目標としては、現在、先ほど申し上げましたその水準に設定をさせていただこうと考えております。ただ、この学力調査そのものが、そういった全体的なランキングだけの問題なのかどうか、その調査について個々一人一人のやはり成長についてつなげていく、そういったことに関して、今後の重点的な取り組みというのも必要かと思っております。その結果として、全体の中での成績が、平均値が上がると。そういったものは、これは結果でありまして、やはり私どもが目指すものは一人一人を見とり、その中での一人一人の成長、それに対する全面的な支援ということが大切ではないかと、こんなように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

私は今の教育長の答弁にびっくりしました。そういう言い方で今までずっときていて、結果がこれなんですよ。目標を持たせるといのは大事なことです、子供たちに。目標を持たせなきゃだめなんですよ。目標を持たせると、要するに自分をコントロールする力が出てくる。そういうところから始めていかなきゃだめだと思うんですね。一人一人の個々のというふうな答弁でしたけども、それでは個々にきちんとその子の能力を見て、あなたはここまでやりなさいというふうな指導をしていくんですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

今回の学力・学習状況調査の結果につきましては、一人一人の子供たちと教員が面談をし、あるいは保護者と面談をしながら、その中でその子のよい点、それから改善すべき点、こういったことについて話をしながらテスト結果を返しております。そういった中から、次にもう少しこうすると、こんなところまでいけるんじゃないかなというような励ましの言葉を含めて、やっておるところでございます。あわせて、それは毎日の授業の中で、その子の状況を見ていく1つの指標になっているわけですので、それを頭に入れながら授業中、個別に期間指導の中で援助したりしていると、そんなふうな状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

どういうやり方でもいいですけども、確実に学力が上がるような形で指導してやってくださいよ。教育長は、学力の順位づけとかどうかということを行いました。今、実際に学力がなければ、次のテスツに行けない社会環境なんですよ。それをきちんと理解して、子供たちにもそうい

う環境の中に送り込んでやれるぐらいの学力をつけてやらなきゃ、それがあんた方の仕事でしょうが。

それともう1つ、学力格差というもの、これ課長からいただいた資料で、コピーを拡大しただけなんですけど、ここで全国公立学校の平均点と、全国の私立も交えた平均点と違いますよね。私立というのはどれぐらいあって、どのぐらいのレベルだというふうに理解してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長（渡辺千一君）

お答えします。

全国で私立の中学校、あるいは小学校がどれだけあるかということ、私は数的には承知しておりませんが、レベル的にどうかということですが、これも正確に調べた経験はございませんが、一般の公立小中学校よりも上のレベルにあるのかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

あんた方は全く分析してないんじゃないかな。全国の私立というのは、私立の中学校でいきますと、私立中学校というのは公立中学校の6%ですよ。6%で、そのうちこのテストを受けた学校が、そのうちの6割ですわ。そうすると、このテストを受けた全体の中では1%を割るぐらいの数字の校数です。その子供たちが、全体の1%に満たない子供たちが受けた点数を足して平均をとると、平均点で1点上がるんですよ。それが学力格差なんですわ。

ここの糸魚川の子供たちは私立がないから、私立を選ぶわけにもいかない。前にも言ったけども、ここの公立学校に進学するしかないんですよ、ここの子供たちは。あなた方がしっかりしなければどうするんですか、ここの子供たちは。そういう教育環境に恵まれたとこの子供は私立へ行きます。都市部では、もう5人に1人が中学校の時代からもう私立へ行ってるんです。あるいは塾があります。また、そういう私立でもってぎちぎちに勉強してる子供たちは、学校の先生が家庭学習用に1日5時間ぐらいの宿題を出してるというんですよ。全くかけ離れてる。それが教育格差でしょう。格差が悪い、格差が悪い、下がった子供をそのままにすると、そういう現状じゃないですか。もっと性根を入れてやってもらわなきゃ困る。

市長、さっき子供にはお金がかかるという話をしましたが、財政が厳しいということで、先日、広報を出しましたよね。それを見て、糸魚川はなかなか夢持てなくなったねえという人たちが、かなりおるんですよ。そこに加えて、楽しみにしてる子供たちが伸びていかない。そうになったら糸魚川はどうなりますか、これ。余裕のある人は、よそへ行って家を建てられる人は出て行きますよ、こんなことでは。性根を入れて教育に取り組んでもらいたいと思いますけれども、市長のお考えを、決意をちょっと伺いたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほども言いましたように、私は子育て環境という中においては先ほど言いましたように、18歳までという感覚であります。そういう中においてやはり私は、今、議員ご指摘の点もあったわけですが、少し落ち込んでいる点には、やはり力を入れていかなくてはいけないと思っております。そして私は何よりも、何で子育て環境をよくしなくちゃいけないということに至って大きな理由は1つ、やはり医師不足から始まっております。やはり医師の皆様方が家庭を持って糸魚川市に住んでいただけるような環境をつくらないかんだらうと。それには何かというと、やはり子育て環境が一番なんだと。みんな単身で来るのは、子育ての環境のいいところに家庭を築くということを知ったもんですから、それをしていこうと今考えてるわけございまして、新年度からは特にその辺に力を入れ、そしてまた組織体制についても、その辺を変えていこうというような気持ちでおるわけでありまして、今、糸魚川高等学校の校長先生ではより特化をした、やはり日本で言われておる、超一流の大学へも入っていけるぐらいの学力をつけていきたいというような話も聞いておるわけございまして、我々はそういった環境づくりをしていかなくてはいけないと思っておるわけでありまして。

ですから、その部分だけではなくて、やはり妊娠してから、すべてその地域で対応できるようなものをもっていきたくて考えてる次第でございまして、議員ご指摘の点についても、私は同感しておるわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。

12番（高澤 公君）

子育ての環境の中の学力というのは、非常に大きなウエートを占めておるんです。今、市長が言うように医者が定着しないということにも、やはりかかわってくるわけですよ。医者の子供はやはり医者になりたい、させたい。それでは、ここにはできないということなんです。

それと先ほども言いましたが、学校、親、地域ではなくて、市と教育委員会と学校の連携をしっかりやってもらいたい。上からやはり指導していくような体制もつくらないと、これからの学校の先生の指導力というのは上がっていかないだらうというふうに思っております。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

議長（五十嵐健一郎君）

以上で、高澤議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

11時15分まで暫時休憩します。

午前11時05分 休憩

午前11時15分 開議

議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、鈴木勢子議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。〔19番 鈴木勢子君登壇〕

19番（鈴木勢子君）

19番、鈴木です。

発言通告書に基づき、4項目質問いたします。

まず、1番目、市民の目線に立った市政の実現についてお尋ねいたします。

地方公共団体は、住民の安全と健康及び福祉を保持し、市職員はその向上と住民サービスに努めることが最大の仕事であります。「最少の経費で最大の効果をあげる」ことは当然であり、平成17年6月定例会、合併後、初議会でこのことについて述べさせていただきました。

対等合併から4年が経過しようとしている中、私は議会人としてよりよい市政を目指して、さまざまな建設的な意見を提言してきましたが、4年間の総括として次の点についてお尋ねいたします。

- (1) 市民の目線に立った市政の実現のために、これまで努力をしてきた点は何か、市民にどのように評価されているととらえているのでしょうか。
- (2) 市長の公約はどの程度実現ができたか、取り残された課題はいかがでしょうか。
- (3) 市の組織機構は、あらゆる分野の施策を遂行のためにも重要であります。今後、見直し求められる点はいかがのでしょうか。

2番目、市民への情報伝達としての広報紙・おしらせばんなどについてお尋ねいたします。

市の広報紙や「おしらせばん」は、市民へ伝達される情報の集積で、ホームページは市民のみならず交流都市を目指す中で重要な情報ツールでもあります。これらは開かれた市政への入り口でもあり、高齢者や子どもにもわかりやすく見やすい内容にしていくべきと、4年前の6月定例会でも取り上げましたので、次の点についてお尋ねします。

- (1) 広報紙・おしらせばんの中で、改善されるべき点や今後の課題はいかがでしょうか。
- (2) 次世代を担う子どもたちのために、「子どもしんぶん」の発行や、子ども向けのホームページの開設を試行してはいかがでしょうか。
- (3) 今年度で5年間の契約が切れる市のホームページの新年度での対応はいかがでしょうか。  
日進月歩のインターネットの世界で、他市とのホームページと比較した場合、当市の課題を把握しているのでしょうか。

3番目、地域医療の整備体制についてお尋ねいたします。

このたび「地域医療体制整備推進の骨子」が示されましたが、具体的で箇条書きであり、きめ細かな政策が見えていない中で、次の点についてお尋ねいたします。

- (1) 交通弱者への通院手段の確保は十分であるのでしょうか。
- (2) 安心して出産ができる医療体制の支援と取り組みはいかがでしょうか。
- (3) 深刻な医療スタッフ（医師・看護師・介護者など）の不足を解消するべく、きめ細かな支

援への検討課題はいかがでしょうか。

4番目、市の男女共同参画プランの推進についてお尋ねいたします。

1999年、国が最重要課題と位置づけた「男女共同参画社会基本法」の施行から10年を迎える中で、市のプラン策定後の推進体制や取り組みが市民には見えにくい現状があります。この「男女共同参画社会基本法」は、男女のみならず少子化・人口対策や高齢者福祉に至るまで、あらゆる分野で、すべての人にやさしい政策理念が盛り込まれております。

そこで次の点についてお尋ねいたします。

- (1) 総務課に所管を変えながら、市政全体で政策が展開できない当市の課題は何でしょうか。先進地との政策格差が大きくなる中で、積極的な推進と組織体制はいかがでしょうか。
- (2) 市正規職員600名を超える中で、女性課長職1名、係長職も数人という中で、この分野では後進地であることをあらわしております。県事業であるハッピーパートナー事業とともに、市長の認識と今後の取り組みについてお尋ねいたします。
- (3) 市の各種審議会委員はできるだけ幅広い市民参画が求められ、同じ人が重複しないシステムづくりや、女性のクォーター制の拡大を図っていくべきではないでしょうか。

以上。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1番目の市民の目線に立った市政の実現についての1点目につきましては、一日も早く新市としての一体化を図るため市政懇談会や全地区訪問懇談会、地区要望会などで、多くの市民の声を聞いてまいりました。いただいたご意見につきましては、できるものとできないものがありますが、できるだけ市政に反映をいたしてきており、一定の評価をいただいたものと思っております。

2点目につきましては、新市としての一体化を目指し、公約を市政に反映してまいりましたが、昨今の社会経済情勢の変化に伴い行政需要が増す中において、少子化対策など行政課題が山積しておりますので、今後も積極的な取り組みが必要と考えております。

3点目につきましては、庁内で見直しを進めているところでありますが、市民にとってわかりやすい簡素な組織、効率的な組織、事業の一元化組織を基本に、検討を指示しているところでございます。

2番目の情報伝達に関しましての1点目につきましては、行政情報を早く正確に、わかりやすく提供することを最優先に作成しており、今後も市民に読みやすい広報になるよう努めてまいります。

2点目につきましては、児童生徒の対象年齢が幅広いことから、1つの広報紙で作成することが難しいこともあり、当面は作成しないことといたしております。また、子ども向けホームページにつきましては、新年度にホームページ改修の中で、検討していきたいと考えております。

3点目につきましては、1年後の新規ホームページ開設を見据え、新年度には庁内で検討委員会を設置する予定であります。この委員会では、これまでのホームページの問題点と、これからのあり方について検討を進めていくことといたしております。

3番目の地域医療の整備体制についての1点目につきましては、医療機関への通院手段として、市内巡回バスや中山間のコミュニティバス、また、福祉有償運送などの利用により、通院手段が確保されているものと考えております。

2点目につきましては、当地域で出産できる医療機関は糸魚川総合病院だけありますことから、現在、産婦人科医2名体制が維持できるよう、関係機関と連携に努めております。また、市民からも市内での出産をお願いしたいと思っております。

3点目につきましては、医師及び医療技術者不足の対策といたしまして、それぞれ資金貸与を行っているほか、医師確保対策事業や診療開設等支援事業を行い、医療スタッフの確保の推進に努めております。

4番目の男女共同参画プランについての1点目につきましては、男女共同参画推進委員会を設置し、市民の意見をお聞きするとともに、関係各課の職員で構成する庁内推進委員会を設置し、プランの推進に努めているところであります。

2点目につきましては、業務の円滑な執行を目的に、適材適所により任用いたしております。男女を問わず職員全員が、個人の能力を發揮できるよう職場環境づくりを進めるため、県のハッピーパートナー企業への登録を行うとともに、引き続き管理職への登用も視野に入れ、職員の資質の向上に取り組んでおります。

3点目につきましては、複数の附属機関や協議会、懇談会等において、委嘱の際に特定の方に集中しないように努めております。また男女共同参画プランに基づき、女性委員の積極的な登用に努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

では、2度目の質問に入ります。大きな1番目と2番目は関連して重複する事項であります。まず、市長は今定例会でも何回か市民の意見を聞いてということの中で、117区長の意見という、170でしたかね、その数字は旧糸魚川市、つまり糸魚川地域だけではないと思うんですね。3地域、青海、能生も含めた数字ではないかなと思うんですが、まずこの内訳と。

それから区長の意見、区長の意見と言われるんですが、区長制度をとっていない地域もありますので、そういうところはじゃあどういう方の意見を聞いているのか、まず、この点についてお尋ねいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全地域、1つの名称はいろいろあると思うんですが、公民館長という束ね方もあるわけでご

ざいまして、そういったところをあわせて全地域、そういった1つの区割りとなって行政区としての役割を果たしているところの数が171ということでございまして、そういった方々のご意見をお聞かせいただいておりますのでございまして、その役職名は1つの言い方で失礼かと思いますが、区長と言わせていただいております。

区長さんというのはやはり市民が選んで、またお願いをして、地域を束ねておられる方々でございますので、やはりその人の意見というのも私は重要ととらえてるわけでございます。住民の方々がよりどころとし、また非常に頼りにしているのが、私は区長ということでとらえているわけでありませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

総務企画部次長企画財政課長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

171の地区ということでありまして、能生地域が41、それから糸魚川地域が114、青海地域が16ということでありませう。青海地区につきましては16ということ、公民館組織ということでありませう。したがって、市長がいう区長等の中では、青海地区につきましては公民館長等があるということでありませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

行政区の171ですね。ですから行政区の代表のご意見ということで、あまり何か区長、区長というふうに前段の議員の質問の中でも出てきましたので、やっぱりこういうこと1つでも、あれっと思うことは、やっぱり新市の一体感が生まれてこないということですよ。一体感が生まれるということは、やっぱり共通の認識を持って進んでいくことではないかなというふうにとらえました。

これからの課題としては、財政面も含めてたくさんあるんですが、公約はほぼ実現できたというような見解でありましたけども、残るは少子化対策、これに向けて予算に関しては予算の委員会もありますから、あまりここでは深く立ち入らないようにしますが、具体的に少子化対策に向けて、どのようなことをやっていくのか、これをお尋ねいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も公約すべてというわけではございませうし、いろんな問題がまだ山積している中にあるわけでございますし、また、一定の方向をみたものもあるわけございまして、それをすべてというのは、ちょっと時間もかかる部分であるわけでございますが、ただ、今その中で特に少子化などという形で、お答えさせていただいたわけでございます。

少子化というのは、やはり前段で高澤議員のご質問の中でもお答えさせていただきましたが、や



はり子育て環境、子供たちを育てる環境を、やはりしっかりと位置づけをしなくてはいけないというのを再認識をさせていただいて、進めていきたいということであるわけでございますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

その少子化対策と関連して、0歳から18歳までの一環した教育の策定ですね、これは予算化されてますが、これに向けて今現在の健康増進課にある親子健康係が、聞くところによりますと廃止されて、福祉事務所の方の子育て支援室に来ましたけども、これも単なるうわさかもしれませんが、この点について、3点目の組織機構についての見直しはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

本間総務企画部長。〔総務企画部長総務課長事務取扱 本間政一君登壇〕

総務企画部長総務課長事務取扱（本間政一君）

新年度に向けて組織についての検討を庁内で検討し、あるいは部課長会に諮ってきておりますが、大きな改正点は21年度中に決めていきたいと思っております。当面、変えていきたいというのは先ほど議員が言われましたように子育て支援について、それぞれ福祉事務所と健康増進課でやっていた親子健康係について一本化をして、0歳から就学前を中心に体制を組んでいきたいということで当面は思っております。その後については先ほど市長が言いましたように、0歳から18歳に向けて子育て環境、あるいは教育の向上に向けてどうすればいいかということ、詰めていきたいという考えでありますが、まず第一歩として新年度は、福祉と健康のものを一本化し、それぞれの対応をしたいということで、今話を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

了解しました。

当市は部制をとりました、非常にこれが賛否両論あるかと思うんですが、やはり部制をとった以上はそれぞれの部のまず連携ですね、これを密にしていかないと、担当が違えば私は知りませんというような管理職がいては、これはいがかかと思ます。部制をより生かした市政を、目指してほしいと思ます。

2番目ですね、1番目とも関連ありますが、市民に対してわかりやすい情報手段というのは、これはもう当たり前のことですが、当初、4年前のときに取り上げた段階から見ますと「おしらせばん」、「広報いといがわ」もかなり整理されて、見出しも含めて読みやすくなってきたと、これは評価してます。しかし、ここでとどまっていけない、満足しては前進がないということです。

他市を、県内も含めて県外を見ますと、もうインターネットは日進月歩ですから皆さん努力してます。私ども港湾交通の特別委員会で、昨年12月に長野県の飯山市へ視察に行きましたときに、

たまたま飯山市の広報、1冊で「おしらせばん」からすべて集約されて市民に、カラーで40ページですね。子供も含めてわかりやすくなっている。1つの雑誌というか、もう冊子で保存できるようにちゃんとなっています。

ここの中には、もうすべてこれ1冊ですから、外郭団体の社協だより、それから生涯学習の分野、総合学習センター、それから男女共同参画とか、もうあらゆるものが全部載ってる。私はこれすごく、お金かかって高いと思ったんですね。ほとんど変わらないと言うんです、そんなに。糸魚川市のようにもういっぱい、月2回のお知らせ、こういうものを集約して、それほどかかってないと驚いたんですけど、やはり目的は市民にとって、わかりやすい編集作業をするということは職員の責務ですよ。自己満足で終わってはいけません。

ホームページもそうなんです。もう何回も何回も、ほかのところは日進月歩で変えています。だから当市ももっと交流人口をふやしたいという公約ですから、もう少し変えてもいい。ところがここで縛りになったのは、富士通との5年契約ですね。合併前の16年から20年まで契約を結んでいた、1,900万円、ここがしがらみとなってなかなかできなかった。それで今21年度は契約が切れるわけですよ。予算書を見ましても、あまり私が見る限りでは明記されてない。だからこの点はどういうふうに21年度、もう4月からスタートですよ。契約が切れるものに対して予算も見えない、どういうふうになっていくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

本間総務企画部長。〔総務企画部長総務課長事務取扱 本間政一君登壇〕

総務企画部長総務課長事務取扱（本間政一君）

予算のことは別としまして、広報、あるいは「おしらせばん」、あるいはホームページのことを言われておりますが、それぞれ改善をしながら、これまで取り組んだというふうに思っています。

今2つほどご提示ありましたが、広報につきましては、どちらかといいますと絵を見て、それに重点的な言葉をつけたもので編集しておりますし、先ほど議員が言われましたのは、どちらかというと言葉でずっと読まなければわからないということもあるわけですので、そういうことを考えながら、今まできたように思っています。

ホームページにつきましては、何回もいろんな意見を聞いておりますので、その都度その都度改善をして、よりよいものに努めてきたというふうに思っていますので、これらにつきましては、それぞれ見方によってはいろんな意見があるわけですので、どうとるかということは、やっぱり全体的なものを集約する中で、方向を決めなきゃならんというふうに思っていますが、今現在では改善をしながら、この方向というのをつかんで市民の方に知らせている状況だというふうに認識をお願いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

部長は私に認識をお願いしたいというふうに言われましたけども、お願いされても私も納得できないこともありますので。

それです市民も見ますね、ホームページは。市民以外も見ます。立場が違えば、当然、市民がわかってることで、市民以外の方はわからないこともある。やっぱりわかりやすくするには、まず表紙、目次なんですよ。この目次は、糸魚川市の場合はわからないって、何回も何回も言ってきた。ただ、いいところは、指摘して、ここがおかしいですよ、ここは変ですよって、即、変えてもらえるところが、これは動きは早いですよ。

でも、全体としてのことを言ってる。やっぱり全体としてもっと中身を、1冊のホームページという中で、すごく充実していっぱいあるんでしょうが目次でわからない、そういうことなんです。だから、どこのどこに載ってますって言っても、何回も何回もクリックしてするよりも、目次で、特に観光も含めてですよ、これは大事なことです。ですから、やはりここが変えれないのが富士通との契約かなと思ってます。

予算にあまり立ち入ってあれですけど、そうすると5年契約で終わって、6年目以降も同じ業者、随意契約していくんですか。それとも、また違う方法をとられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

総務企画部次長企画財政課長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

ホームページの方ですけども、5年契約がこの2月で切れます。したがって、今後は更新をする予定であります。したがって、リース料が安くなるということでもあります。

ただ、平成21年度に、市長が答弁しましたとおり、ホームページの改修作業をやりたいということで考えております。したがって、予定的には来年の今ごろにはホームページを改修したいということで予定してます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

来年の今ごろということは、1年間どうするんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

総務企画部次長企画財政課長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

1年間は現在のリース後ですので、リースが済みまして安金額になります。そういったことで、その間に今ホームページの改修作業をしたいと、1年間かけてやりたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

そうすると、21年度は合併後の第2ステージということを言われますけども、第2ステージの1年目は、かなり改善されていくというふうにとらえてよろしいわけですか。そして、それが完結するのが来年の今ごろということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

総務企画部次長企画財政課長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

ホームページはいろんな意見、要望もございますので、その辺も含めまして、どのような改修をした方がいいかということで改修作業をやりまして、来年の今ごろには新しいホームページにしたいということでありませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

子供向けのホームページに関しては、庁内で検討していくということですので、期待をしております。以前もこの問題を取り上げたときに上越市のことを、ちょっと事例を出しました。上越市はご存じのように外部委託しないで、内部で全部職員が作業やっています。ですから職員と、あと臨時職員の方も使っておりますね、非常にパソコンに精通しての方であります。もうスピード感、フットワークがすごいですね。私が上越市を訪れたときも女性課長だったんですが、もうホームページはフットワークが命ですと。例えば桑取のどこそこに熊が出ましたとか、もうそういうことを安心メールも含めてスピード感がないと、市民に効果がないわけですよ。それで庁内でもうできるようなシステムになっているんですね。これは私は糸魚川市も、これ取り入れることできると思うんです。職員だけでやろうと思わないで、例えばパソコンに精通した市民はたくさんおられると思うので臨時採用でも、その採用の仕方はもちろんいろいろですけども、そういったところでスピード感を持って、第2ステージに向けてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

総務企画部次長企画財政課長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

上越市の方は子供新聞といいますか、子供広報も出していますし、ホームページも出しているということでありませう。ただ、子供広報につきましては、昭和46年の高田、直江津の合併以来ということで、大変伝統があるというふう聞いております。年に11回を発行しとるんですけども、編集の方は広報の担当者だけでなくて学校の先生、それから教育委員会等、編集をしているということでありませう。

ただ、最近聞きますと、21年度は、ちょっと流動的になってるということでありませう。と申し

ますのが、21年度には年11回発行を、これを年4回にしようかということで検討してるということでもあります。やはり講読といいますか、読んでもらえないようなケースが往々にあるということで、その辺が非常に流動的でございますので、その辺は、また上越市の状況を確認をさせてもらって、参考にさせてもらいたいと思っております。

ホームページにつきましては、先ほど市長が申しましたとおり、今回のホームページの改修の中で検討したいということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

そうですね。伝統ある市の取り組みを、今、糸魚川市が即というのは、もちろん無理というのも承知しております。でも市長は一体感、一体感で、でも大人になって一体感を、さあ合併しました、今4年目ですけど、一体感で子供のころから小学校18校、中学校5校ですね。給食内容もみんな違うんですけども、その中で一体感を持って育った子供たちが成人して、さらに私たちが持てなかった一体感を持ってこの地域に住んでくれたら、私はとてもいいことだと思うので、ぜひ子供新聞が無理だったら、せめてホームページで実現してほしいと思います。

今、小学校の高学年の子もホームページを開いてるんですね、驚いたんですけども、だから子供だとやっぱり思わないで、もうあらゆるところにチャレンジしてやってほしい、第2ステージの年にしてほしいと思います。

飯山市のことも取り上げましたけども、当市と比べて人口半分のところでも、こういうものができるところ、これはやはり市民にどういうものを行政が伝えたいのかという、この熱意です。「おしらせばん」も含めて、「議会だより」も含めてですけども、どういうものを伝えたい、そしてたら編集もかわってくる。それで行き着くところが、飯山市のような1冊の冊子になったんです。だからある意味では、もう本当に取っておきたいですね。新しいごみ処理のことから農業委員のことからすべて、振り込み詐欺のことから健康づくり講座から、それがきちっと整理されて編集してるから読みやすい。ごちゃごちゃ、ごちゃごちゃしたらだれも読まない、そういうことです。だからよりよいものを第2ステージへ向けて、ただ言葉だけではなくてやっていきたいと思います。

時間もありませんので、3番目に進みます。

この地域の医療体制について、文教民生常任委員会でこの骨子が示されたわけなんですけど、非常に私は問題があるととらえたのは、松田議員も取り上げましたけど計画はつくと。市の総合計画、実施計画の中で具体化していくということなんです。実施計画もさきの中期財政見通しで、今までの実施計画も変わって、新しく21年1月にこれが配付されましたよね。

医療体制の整備というのは、もうこれは避けて通れない問題なんですけど、いっぱい聞きたいことがあるんで、これだけで30分で終わりますので、3つの項目を挙げました。

交通弱者への手段、確保をされていると思うと市長は言われたんですけど、新年度から今までのタクシー券を廃止して、バスに乗ってほしいということですけども、バス停に、病気ですよ、通院だから病院へ行くわけですよ、薬もらいかもしれない、そこまで行けない弱者でしょう。そういう人

たちもいるんですよ。福祉有償運送の方は、一定の縛りがありますよね、介護保険の。ですから、市民のこういった弱者に対して、きめ細かなものを作っていくというところでは、片一方を削って、今度は新しいさあバスって、これが市長、こういうことが思いやりの一体感のある市政でしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから私は公共交通機関のバスを1つの核にして、すべてに対して落ちのないものにもっていききたいという気持ちでおるわけございまして、それですべて、私はよしとしてるという形ではございません。いろんな面で、やはりこれから1つの核をつくって、それに対してどのような形を考えていけばいいのか、また、そういった公共交通機関の行かないところは、どうすればいいのかというのを、これから考えていかなくちゃいけない。そういう市内を押しなべて、1つの流れをつくっていかなくては、なかなかうまくいかないだろうということで始めておるわけありますので、そういったところを、またこれから検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

これから、これからと言いますけどね、新年度が4月からスタートでしょう、空洞期間を設けたらいけないと思うんですね。そういうことではないでしょうか。

私はバスのパス事業で悪いとは言ってません。でも、市民がチョイスできる、選べる。私、もうバス停まで行けない、雨風しのぐ屋根もないバス停ありますよ、ちゃんとしたバス停もありますけども、いろいろです。そこで風が吹いてるとき、雨が降ってるとき待っていなきゃいけない。足が悪いとか、そこまで行くまでも大変。だから今までみたいにタクシー券があったらいいよねって、そういう市民もいるんですよ。そういうところに光を当ててほしいということ。これからやっていますって言った、またさっきのホームページみたいに1年たって完結ですか。この間、私たちは、じゃあ21年度はどうするかっていうところで。

それとできるだけやはり元気な、もう寝たきりにならない、施設入居でない、まだ自宅で生活できる方をやっぱり維持していくって。みんな老いの階段って登りますので、老いはとめることができませぬけども、でも、できるだけやれることはやっいていこうっていうのが、これは健康づくりの一步じゃないかと思えますけど。市長、新しい市長も第2ステージで市民の審判を受けるわけですが、ここは大事なところだと思います。もう公約に書かれるぐらいの明言をしてほしいと思えますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

100%というのは、なかなかわかりにくいわけございまして、どのような状態があるのか、どのような形態があるのかというのを、ある程度想定はする中で進めとるわけでありまして。そういう中で、やはりお困りの方々がまたおられるということになれば、それに対する対応はやはり考えなくては行けないわけでありまして、今までなかなか市民に対して光が当たらなかったところもあったわけございまして、そういったところを全体的な中で見て進めていかななくては行けない。それが市の全体のやはり一体感だろうと思つとるわけでありまして、1地域のことだけでは、とらえられないものが多いわけございまして、ご理解いただきたいと思っております。そういう本当にお困りの方あるんなら、やはり早目に調べさせていただいて、それに対して対応もしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

1地域のことを言ってるわけではなくて、やはり全体を見ていかなきゃいけないわけですけども、私は少なくともタクシーの高齢者助成事業、これは旧青海町から始まって、最初は1万円でしたね、合併で8,000円ですか。金額はともかく、こういう制度も私は残してほしいと思います。ここが、やはり市民が選べるようにしたらいいと思うんですよ。不満足を持って一体感が生まれないうことを、私はここで申し上げたいと思います。

十分に検討してほしいと思うんですが、ここにいらっしゃる方は8,000円ぐらい困ってるわけではないというふうに思ってるかもしれないけど、市民の3分の1は、もう65歳以上でしょう。それから、年金暮らしの方も多いですよね。だからタクシー券を使えるということも、バスが使える人もそれはいいですよね、事業の拡大ですから、タクシー券を私は残してほしいなという思いで、あえてここで交通弱者というふうに取り上げました。

時間がありませんので、次、安心して出産できる医療体制、ここは糸魚川総合病院の産婦人科は存続ということで4,000万円、18年度ですか上がってきて、かなり整備されてきましたけど、医師2名の確保はもう網わたりです。この現状を、担当課はご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、2名体制になったときの状況をお考えいただきたいと思ってるわけございまして。我々は必死になって医師をお願いに行つて、今の状況ができたわけございまして、当然、産婦人科の医師が少ない大変な状況だということは、もう重々認識した上での予算執行もさせていただいたわけございまして、それ以来、非常にいろんなところに我々も、またさらにお願ひに行つとるわけございまして、なかなか、本当にこの2名体制で、ぎりぎりのところであるということも十分認識い

たしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

把握されてると思うんですけども、現在の2名の産婦人科医の先生は、もう3月末で糸魚川病院を去られます。厚生連の同じ県内から、ほかの先生が来られるんですが、もう4月から9月までの5カ月間、その後、9月からまた1月まで5カ月間、もう1年スパンでなくなってるんですね。厚生連としては、非常にもう頑張って努力して下さってると思うんですが、この現状、市民が利用するわけですよね、産婦人科って。当然、市民に不安を与えてはいけないということを、前、取り上げました。妊娠して出産するまで、すごい長い期間通うわけですから、同じお医者さんの方が、より不安がないと私は女性として思います。こういう短期間、5カ月、5カ月でもう仕方ない、厚生連としては精いっぱいなんですけど、こういった努力の中で行政の支援、さっきの骨子の中で見えないんですよ。ここに書いてあるんですよ、安心して出産できる医師体制が必要である。これ総合計画実施計画で、じゃあ具体的にどういうふうにしていくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

具体的な案があれば、我々はお示しをさせていただきたいと思っておりますが、今、非常に大変な状況であることは、もう議員ご指摘のとおりであります。いつ何どきいなくなるかわからないという状況の中で、本当に1年1年をつなげておくこと自体も不思議なぐらいだと思っております。

我々はそういう中で、当然、厚生連の皆様方のお力、富山大学のお力というものを、非常に私はありがたく感じておる次第でございますが、今の段階では、その両組織にお願いをするより仕方ない状況であります。

そういう中で、私が今やっております中で、もしそれにかわるいい1つの案が、またいい1つの事柄があれば、ぜひともそれに取りかかっていたいと思ってる次第でございますが、今の段階ではそういった状況であるわけでございますし、これは産婦人科だけではなくて、他の診療科においても同じ状況があることもご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

産婦人科だけではないということは、私も十分理解しております。

それで3点目の医療スタッフですね、これは医師の支援制度はいろいろ取り組まれています、看護師も含めて現場の介護者ですね、この不足をどうするかということも先ほどの骨子では、なかなか活字だけで見えてない。



今、糸魚川総合病院は看護、要するに10対1がもうぎりぎりのところで、ほかの厚生連の方から職員、看護師ですよ、もうぎりぎりのところで10対1が守られているんですよ。アンケートを最近とられましたね、働いてる女性たちの。やっぱり子育て支援を求めているんです、働いているから。ですから、私たちここに居る人たちが机上の政策で考えていることと随分違います。今、市長ね、意見を聞かせてくれと言うから、現場のそのアンケートの声をきちっと聞いてほしいと思います。

やはり子育て支援とここが密接にかかわる。今、厚生労働省も7対1にしましょうということでしよう。7対1どころじゃないの、この地域は10対1が辛うじて。ほかの厚生連の病院の協力で、そしてまた戻ってしまうんですよ。先ほど医師のことを言われた。戻らないように、糸魚川市は子育てもしやすい、そういったとこで残ってもらう政策を展開してほしいということです。もちろん医師だけじゃないでしょう、医師だけで病院は成り立たないわけ、ここを私は取り上げた。だから計画をつくらない、もうこの骨子だけで進めるんなら、もう少し具体的に示してほしいということです。これに対してご意見があったらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

市民生活部次長健康増進課長（小林 忠君）

骨子というふうな形でまとめましたことについては、先般の松田議員さんのときにもお話をさせてもらっております。

大変医療スタッフの状況が厳しいことはわかっております。そのために骨子に、そういったエキスをまとめまして、それを実施計画の方で進めていきたいということで申し上げてきておるわけでございまして、その1つ1つのことについては、相手方ともよく相談をしないとできないという部分がございます。そういった状況ができ次第、私どもは迅速にいろんな対応をとってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

鈴木議員。

19番（鈴木勢子君）

相手方があることですけども、当然行政の中で骨子で挙げたわけですね、医師、看護師等の確保、課題、人口10万人に対して、もう当地域は少ないって、看護師は。だからここが課題だったら、課題に取り組みなきやいけないということです。課題を避けてて、皆様の仕事は何ですかということをお願いしたいわけ。

4番目はもう時間がありませんけども、クォーター制を言いましたけども、プランの中で、平成23年度までに40%にするという数字が示されております。ですから、同じ人が重複しないで、やはりプランに沿って、もっと推進体制を強化してほしい、ホームページでもわかるようにしてほしい。これが参画の基本法の理念だと思います。

以上です。

議長（五十嵐健一郎君）

以上で、鈴木議員の質問が終わりました。

13時まで暫時休憩いたします。

午後0時04分 休憩

午後1時00分 開議

議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、久保田長門議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。〔14番 久保田長門君登壇〕

14番（久保田長門君）

14番、清新クラブの久保田でございます。

事前の通告書に従い、一般質問を行います。

任期4年の間、みずから発言したことや、みずから行動したことについてピックアップし、以下、3項目、1回目の質問をいたします。よろしくお願いいたします。

1、教育行政について。

(1) 平成20年教育基本法の改正により、小中学校の学習指導要領が改訂され、ゆとり教育の見直し・道徳教育の見直し・幼児教育の見直しがされたことは周知のところですが、過去の一般質問で取り上げてまいりましたが、そうしたゆとり教育の見直しの反省の中、理数教育においては授業時間や実験の数を増やしているとのこと。教育界における2011年問題、いわゆる2年後の小学校5～6年生から英語教育が取り入れられるわけですが、市の対応を伺います。

(2) 観光立国推進基本法が平成20年に成立し、その基本計画の中で「次世代を担う子供たちに対し観光に対する興味及び理解を早い段階から促す」要項があります。ここで注意しなければならないのは、観光教育というと「観光客を増やす教育か」と誤解されますが、全く違ってみずから住んでいる郷土のよさを理解し、そこに愛着を持たせる教育である。このように新学習指導要領には「世界遺産の教育」が入り、その中に「観光の教育」が3カ所入ってきているが、当市の小学校18校、中学校5校における「観光教育」の現状を伺います。

(3) 磯部中学校の統廃合問題が、さきの2月9日の教育委員会協議会で話し合わせ、2月10日の文教民生常任委員会でその内容が報告され、平成22年度に能生中学校に統合と2月11日付の系西タイムスに掲載された。しかし、まず統合する側の学校、そして地域住民に対し、そして統合される学校、その地域住民に対し適正な説明で進めてきたか。そして、今後どのように進めて行くのかを、改めて考えを伺います。

2、観光行政について。

系魚川市は2014年に待望の北陸新幹線の開通を迎えるわけだが、さまざまな施策により交流

人口（観光客）の増大というビジネスチャンスが到来する。私は、一般質問の中で「観光行政」を取り上げてきました。また、糸魚川市の観光セールスマンという立場で、この魅力ある糸魚川を一人でも多くの人から知ってもらうため、県そして国内外へ発信し営業をしまいいりました。新幹線糸魚川駅舎の北側が日本海、そして南側がアルプスのイメージとのことだが、

- (1) 新幹線糸魚川駅舎とジオパークのイメージをどのように関連づけていくか伺います。
- (2) 広域観光の構築が大切であるが、ソフト面での戦略戦術をどのように考えているかを伺います。
- (3) 一昨年の12月4日に焼山入山禁止を解除したわけですが、笹倉から焼山へ登りたいが現状ではゲートに鍵が掛かっており、何とかならないかという問い合わせが何件もあり、今後の見通しはいかがか伺います。
- (4) マスコミの協力を得て、県内外へ糸魚川を発信することが観光推進の上で大きなウエートを占めるが、市は今後ジオパークを進めていく上で、どのような戦術を展開するか伺います。

### 3、水産行政について。

放流事業では新潟県において昨年9月7日天皇皇后両陛下をお招きいたしまして、市内の海洋高校の生徒の皆さんが育てていただきましたオコゼの稚魚を放流したのは、記憶に新しいところであります。

私は、この放流事業の件で再々度の質問を行います。

- (1) 今年度も糸魚川市内においては、ヒラメ、アワビ、オコゼ等の放流事業が行われるとのことですが、私の計算では、いわゆるソフト対ハードの比率の数字があるが、何度もその割合を改める時代が到来したと助言しても一向に変化の兆しが見られないが、改めて市の考えを伺います。

以上、1回目の質問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

久保田議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の観光行政についての1点目、新幹線駅舎とジオパークのイメージの関連につきましては、駅舎の設計に当たっては、糸魚川らしさを感じられるようなデザインを鉄道運輸機構に要望しているところであり、今後の基本設計の中で協議をしていきたいと考えております。

2点目、戦略、戦術につきましては、市といたしましても広域連携は重要と考えており、上越地域及び近隣県の観光関係団体との連携を協議してまいりたいと考えております。

3点目、焼山につきましては、焼山入山禁止の解除をしたことから、今後の開放に向け市の管理道路への委譲区間や制限、対応等について、上越森林管理所や糸魚川地域振興局などと協議、検討を行っているところであります。

4点目、情報発信につきましては、ジオパークを推進する中でマスコミへ情報提供し、全国へ糸

魚川の情報発信に努めてまいりたいと考えております。

3番目の水産行政であります。漁業振興のため資源の保護や調査研究の観点から放流事業を行っております。漁港整備等につきましても、漁業者の安全な操業を確保するため整備を行っております。これらハードとソフト両面とも、水産振興につながると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

教育長（小松敏彦君）

それでは私から、1番目の教育行政についてのご質問にお答えをいたします。

1点目、小学校5、6年生からの外国語活動につきましては、移行期間中の時間数、内容について中学校区単位で検討し、実践するよう指導しております。

また、ALTの小学校への派遣について、これまでより回数をふやし、外国語を通したコミュニケーション能力の育成を図ってまいりたいと考えております。

さらに、教職員の外国語活動にかかわる研修会を今年度から実施しておりますが、今後、さらに充実させる考えであります。

2点目、小中学校における観光教育の現状であります。当市では観光教育という名前の教育は行っておりませんが、その趣旨に合致したふるさと糸魚川学習に力を入れて取り組んでおります。

また、期待する子供像を、「ふるさとに学び、たくましく生きる子」と定め、ふるさと糸魚川に愛着を持ち、心豊かな子供を育てるために、地域の自然や歴史、文化や生活を、地域の人々とのふれあいを通して学ぶ学習活動に、すべての小中学校で取り組んでおります。

その成果は、各学校の学習発表会や、市内の小中・高等学校が参加して行いますふるさと学習交流会で発表をしているところでございます。

3点目、磯部中学校の統合につきましては、昨年10月から12月にかけて磯部中学校区内の各地区の皆様や、小中学校及び保育園の保護者の皆様から、中学校の教育環境に関するご意見を伺うための懇談会を開催してまいりました。

その中でお聞きしましたご意見につきましては、生徒のことを考えると、今、統合を考える時期にきているという、そういった意見がほとんどで、早く教育委員会としての基本方針を出して、統合に向けた具体的協議をしてほしいという内容のものでございました。

こういった地元保護者の意向を踏まえまして、教育委員会では去る2月9日に協議会を開催し、磯部中学校は地域のご意見をお聞きしながら能生中学校への統合を進める。統合の時期は、平成22年4月とするという基本方針を決定させていただいたところであります。

このことを翌10日の所管の常任委員会でご報告いたしましたところ、私どもの本意とは異なるわけですが、早々に新聞報道がなされました。このことにより、情報提供の先後に対して地域の方々の中で、不快感をお持ちの方々がおありになるということを知っております。このことについて、配慮が欠落していた点があったかと思っております。この場をお借りしまして陳謝を申し上げます。

教育委員会といたしましては、今後、早い時期に基本方針に基づき保護者や地域の皆様にご説明を申し上げ、ご意見を伺う機会を持つ予定であります。そういったことで、説明会等の持ち方につきましても地域の方々のご意見を伺いながら、最終的に地元や保護者の合意を得た上で、統合の準備、手続を進めてまいりたいと、このように考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

答弁ありがとうございました。

再質問を行います、1番目の教育行政の（3）の、今ほど教育長が答弁をいただきました磯部中学校の統廃合問題についてです。このことは地元の磯部協議会において、市の進め方には納得できないから定例会において追及してほしいという強い地元要求に基づき再質問を行います。

ここに地元の筒石地区の総代さんが出したコメントがあります。読み上げます。

昨年12月の懇談会は、住民が磯部中学校の統合問題と思つて質問を出しても、市の回答は、きょうは教育に関することの一点張りで、質問を出しても明確な回答が得られず、その手法にも私も他の皆様方も不信感でいっぱいでした。腰を折られ、消化不良の懇談会でした。そして十分な説明がなされないまま、2月11日にマスコミ報道された。その見出しが「磯部中を統廃合」、私を含めて住民は愕然としました。何も私らは統合反対と一言も言つてません。

それでは質問いたします。

昨年の12月6日ですか、筒石地区の住民に対し、小中学校の教育問題というテーマで地域住民に案内状が届いたと思ひますが、これは事実ですか伺ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

山岸教育総務課長。〔教育委員会教育次長教育総務課長 山岸洋一君登壇〕

教育委員会教育次長教育総務課長（山岸洋一君）

お答えいたします。

それは事実であります。一言申し添えますと、まず、私ども新しい糸魚川市となつての教育委員会の中では、磯部中学校については統合の方針というものを全然持つておりませんでした。したがつて、まず状況がそのように校区の中で、一部そういう声もあつたわけですが、そういった状況をまず地元、それから保護者等からお聞きをして、それから教育委員会としての方針を出していきたいという意味での各地区懇談会、あるいは保護者の懇談会ということで、ご案内をさせていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

先ほど申し上げましたけど、たったわずか1度の説明会で、地元と十分な協議はしてないと地区

民が怒ってますよ。この手法が、糸魚川市の教育委員会のスムーズな統合の進め方ですか、そこら辺、またお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

山岸教育総務課長。〔教育委員会教育次長教育総務課長 山岸洋一君登壇〕

教育委員会教育次長教育総務課長（山岸洋一君）

お答えいたします。

時間軸で申し上げますと、今ほどちょっと申し上げた部分もございますが、まず、教育委員会としては基本方針を持っていなかったと。しかし、非常に生徒数が、10年前110人というところで統合を見送ったという過去の経緯があるわけですが、それがもう半分以下になっている。先ほど申し上げましたけども、磯中学区の一部地区からもそれを危惧する声が、地区別懇談会の中でもあったという。

そんな中で、私どもは地区の声を聞かせていただいて、地区の皆さんは、もう先ほど教育長答弁にありましたとおり、そろそろそれも考える時期に来ているんじゃないかと、こういうお話がございましたんで、教育委員会としては、じゃあそういうことでの方針を協議をして出してまいります。その時期につきましては、いつごろまでなんだということまで、地元としてのお話がありました。ぜひとも今年度中までには、そういった方針を出したいというお答えをさせていただきました。

したがって、順序としては、まず統合という言葉は当時は使えなかったわけですが、初めてこういった基本方針を持ったということで、具体的な統合という言葉を使って地元の方へこれから精力的に入り、スムーズな統合を目指した地元の合意形成をつくっていききたいというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

私はこの統廃合問題では、大変失望しております。あれだけあなた方に対し、慎重の上にも慎重にと配慮して、具体的例を挙げながらあなた方を説得しました。それにもかかわらず、ここに約1年前の「教育糸魚川」があります。教育は愛だとおっしゃっております。

統合する側の能生中の皆様には、この議場にも7名、8名の先輩OBがおられます。能生中にも大変立派な歴史があります。バレーボールはともかく学習レベルがすぐれているから、発表されれば、当然マスコミの人たちも記事にするのは当たり前で、むしろ書かない方がおかしいと思います。統合する側の人々の心を逆なでにしてないと言い切れませんか。その辺の考えを教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

山岸教育総務課長。〔教育委員会教育次長教育総務課長 山岸洋一君登壇〕

教育委員会教育次長教育総務課長（山岸洋一君）

報道の中身についてのご質問かと思えます。

私どもは一連のあるがままを、常任委員会の中で報告をさせていただきました。その中で、どう

いった報道が適切なのかというのは、私どもの関与するところではないわけですが、それは報道の自由という形の中で、報道される方の裁量ということになるかと思っております。ただ、見出しの出し方としましては、「磯部中を統廃合 平成22年度に能生中へ」と、こうなってるということにつきましては、非常に本意ではなかったなという感は思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

この問題を取り上げましたところ学校関係者、いわゆる保護者の方から、学校の子供たちが大変に不安がっている。これは統合となれば、どこの学校でも子供たちが心配になるのは当然です。しかし、親たちが不信感の中で伝える発言には、子供たちは余計に不安になるのは現実かと、今、磯部中学校の統合問題で、この現況を、これからどのように子供たちや親たちに、そうでなかったんだと事情的な説明をしても、あなた方が地域でやったことは、そのような受け方をされるわけですよ。その辺をどのようにして、今後、対応していきますか、解消していきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

山岸教育総務課長。〔教育委員会教育次長教育総務課長 山岸洋一君登壇〕

教育委員会教育次長教育総務課長（山岸洋一君）

お答えいたします。

実は報道されたのが11日でありまして、常任委員会の翌日であったわけですが、12日の日には磯部中学校の校長から保護者あてに、保護者の皆さんへということで、臨時集會も開いたりしながら、子供たちに実情というものを、それからこういった状況というものが報道されたけども、皆さんは今ある中で精いっぱい、磯部中学校の中で頑張ってもらいたいというようなことで、保護者の文書も出させていただきました。

また、我々の本意としては、地区としては今年度中に教育委員会の方針をつくってほしいと。その後、年度末、それから年度の始まりに地区と懇談をして合意形成をしていこうと、こういうことでありましたので、今のご質問については、そういった要望に沿ってきちっと年度末、年度の初めに、保護者の皆さんと合意形成をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

先ほどの地域懇談会、昨年12月6日の筒石地区の会合では、磯部小中学校の教育問題と地域住民に案内を出した。そして話が進んでいく中、住民の中から、これは中学校の統廃合そのものでないかと指摘され、市は次のようなコメントを出しておりましたね。

我々市は、統合問題は考えていません。この件はある地域から強い要望がありましたので、取り上げないわけにはいきません。これは納得いきます。今後、この問題においては地域住民と十分話し合いを重ねた結果、進めていきます。この説明を守ってください。

それでは、( 1 ) の教育基本法の件に触れます。

先ほど高澤議員も午前中に指摘されておりますが、危惧してるのは中 1 ギャップでありまして、このことは私が申すまでもなく、説明を省きます。この小学校 5、6 年生の英語教育の導入の中で、再びこのような問題が生じると予想されるが、このことについて市はどのように考えているか、受けとめているか、対応とか説明をお願いします。

議長(五十嵐健一郎君)

中身を説明してください。どうぞ、立って。

14 番(久保田長門君)

英語教育を導入した結果、当然、中 1 ギャップのようなギャップといいますか、スムーズに進めれば何ともないんですけど、今後 2 年後に、この問題が導入されてきた場合、現場においてスムーズに、そのギャップが起こらないように、どのような対応を現在の時点で考えているか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

改訂になりました学習指導要領でございますが、21 年度、22 年度が移行措置でございます。23 年度から全面実施という形でございます。

そうしましたときに、23 年度までに市内の小学校在外国語活動を全くやらないまま 23 年度を迎えたのでは、これは大変なことになるだろうということで、この移行期間は 2 年間ですが、いずれもすべての小学校で外国語活動について実施をいたします。ただ、時数については、この移行期間中、総合的な学習の時間を使ってやるということになっておりますので、市として一律 35 時間、全学校でやってくださいというふうになかなか言えない。といいますのは、この総合的な学習の時間は、まさにそれぞれの学校が特色を出している、ふるさと学習等をやっているところでございます。

そのような関係から最低限、各中学校校区で事業の時数、それから内容については、そろえてくださいというお願いをしまして。そのような形で、来年度、再来年度、各小学校でこの外国語活動に取り組んでいただくという予定でございます。

中 1 ギャップのお話でしたが、まさに今までは小学校で、ほとんどこの外国語の学習をしないまま中学校に入って、まさに新しい教科が入ったためのギャップというものも、子供たちにはあったのかなというふうに思うわけですが、それを少しずつ小学校でもやりながら、中学校に入っていくというのは、今まで以上にスムーズな移行ができるものと、こんなふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(五十嵐健一郎君)

久保田議員。

14 番(久保田長門君)

今、課長が答弁してくれたとおり 21 年度、22 年度で、文科省は教師に対し 30 時間の研修を



受けさせるそうですね。そこで、このことを答えてくれたとおり、中学校対応といたしますが、例えば県でもそのような考えだと聞いておりますけど、現場ではALTやチームティーチングを考えていると言いますが、今後、この方向に向かっていくことがよくわかりました。

それでは、(2)の観光立国の方へ進めさせていただきます。

ここに先輩議員から先ほど資料をいただきました「光る教育」、光るものに触れる観光教育、私も偶然この記事を目にしたことがあります。

そうした中、地域の発信している光るものに触れる観光教育、例えばその最たるものが、中能生小学校6年生が教育活動の中で学んだ、奴奈川姫が大国主命から逃れるときに片手に勾玉、片手に金虫、この金虫が今NHKで放映の「天地人」の上杉藩が、陣羽織で莫大な富を得たという話は知る人ぞ知る話です。

もう1点は、野本議員がお話されましたが、上早川小学校が火山防災フォーラムで発表した焼山噴火の当時、実際、当地域で起きたことに取り組んだ教育活動があります。これは教師の仕事であります。このようにして教える側の教師を、市は今後どのように育てていくか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

今、議員ご指摘のとおり、本当にこの糸魚川には光るもの、素晴らしい自然、文化、歴史、そういったものがございます。それらはすべて、子供たちの大事な、大事な学習材であるというふうに考えております。

それを教える立場の教員の方が、糸魚川市生まれの者ばかりではありません。他地域から入ってきている者もおりますので、これまでも新人研修、当市に初めて赴任してきた教職員の研修として、今ほどご指摘があったようなところ、今で言いますとジオサイトになりますが、そういったところの研修に出かけておりました。来年度もそういったところの研修をさらに広げていきたい、こんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(五十嵐健一郎君)

久保田議員。

14番(久保田長門君)

市長にお伺いいたします。

私がなぜこの観光立国教育の一般質問を行ったか、その裏にはジオパークがあります。

英国の前首相のブレア氏は、7歳の子供たちが読む読書量が20年後の英国を決める。政治家というものは、先を読むのが最大の任務と考えていますし、それこそ米田市長が政治生命をかけたジオパークにつながってくると私は考えています。この観光教育に対し、市長の考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(五十嵐健一郎君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに議員ご指摘のとおりジオパークというのは、以前もやはり我々が進めてきておるこの大きな目的は、この地域の恵まれた資源、自然、そういったものをやはりきちっと保存しながら、学習の場であり、研修の場で使っていこうということの中から、フォッサマグナと地域開発構想という1つの考え方、その方向を見出し、フォッサマグナミュージアムを設置し、そしてまた博物館等もつくっていただき、進めてきておるわけでございます、ただ単に見るだけではなくて、学習の場と、研修の場ということで進めてまいっておるわけでございます、まさに議員ご指摘のとおり、今ここで、このジオパークが使えるんじゃないかなということで、さらにそういったところを広げながら進めていきたい。そして、まさに子供たちがやはりそれを知ることによって、学ぶことによって、ふるさとのその誇り、またそういった尊厳をしっかり持って、この地元であり、また市外であり、世界でありの活躍を願うものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

それでは、観光行政に移ります。（2）の広域観光について伺います。

2008年3月26日、新幹線沿線開業と県が進めている大観光交流年と、21年度から観光局を新設し、体制を強化することが決定しております。

そこで、上越・糸魚川・妙高観光連携協議会を立ち上げたわけですが、やがて1年経過しておりますが、現状を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

商工観光課長（田鹿茂樹君）

お答えを申し上げます。

今、北陸新幹線開業を見据えまして、糸魚川市、妙高市、さらには上越市で、観光振興を担っている官民が連携し、今後の広域観光のあり方の情報交換、さらにはエリア全体としての観光振興の取り組みを推進するというのが、この観光連携推進協議会の設置目的でございます。

今の段階では情報交換をしている段階でございます、今後、新潟DCキャンペーンの本番もございまして、さらには連携を密にし、広域でとにかくお客様を呼び込むような方法を、今後はこの協議会を通じて考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

昨年11月21日、小谷村と議員研修で話題になった日本最古の恐竜の足跡がありますね、それともう1件、ことしの1月21日、朝日町と議員研修でヒスイ海岸の共有という近隣近郊友好都市

といいますか、友好市町村をヒントに、竹之内学芸員さんより、また宮島学芸員さんより研修会の受講の中で、ジオパークを進めていくためには絶好のチャンスと感じましたが、これらの町村と今後どのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

商工観光課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

今出ました2つの町村でございますけど、小谷村とはもう3年ぐらい前から年に2回情報交換をし、今後、連携をしながら大系線といいますか、長野県側との交流を深め、さらには観光誘客に結びつけたいというふうな形で、今、情報交換会を行っております。

今お話の朝日町の方につきましては、何回か情報交換はやっておりますが、定期的なものというのはございませんので、今後、連携を深める中で、さらには定期的な情報交換をし、広域的な連携をどう進めていくか、協議をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

それで、これは田原議員と鈴木議員が、先ほど質問の中でおっしゃっておりますが、昨年12月22日、港湾交通特別委員会の視察において、長野県飯山市では近隣市町村10の自治体で、今年度より1,400万人の目標で振興検討組織を立ち上げる説明を受けました。まさに、目からうろこでした。私は何も糸魚川市が今までしてないとは全然思ってません、一生懸命やっとなと思いません。

そこでお伺いします。飯山市のように新幹線駅と連動とした土地利用、新産業立地、ここからですけど、観光の推進のアクションプランが当市にはまだ弱いようなというか、まだ先が見えてない気がするんですけど、今後どのように対応をしていきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

商工観光課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

アクションプラン的なもの考えたかどうかというご質問だと思うんですが、我々としては、まずは地域の観光誘客のための地域力を上げるために、まずは地元での地道な活動を先に優先をしてみたいというふうに考えております。

その上でアクションプラン等の計画につきましては、今後の大きな課題というふうには認識しております。まずは地域の連携の中で、地道な活動をどうつなげていくかというのを、まず、さきにさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

それでは（3）の焼山登山に入ります。

当焼山は、妙高市と糸魚川市にまたがっております。私も当時の環境庁等から、市長の大変な努力によって許可を得たと聞いております。しかし、チャンスを与えていただきながら何の前進も見られなかったし、そしてまた失礼ですけど、知恵も汗もかいたような様子も感じ取られない。糸魚川市はそういう自治体と受け取られないかと大変心配しております。

また、あるいはよくない評価を受けて、その流れがもろにジオパークを進める上でマイナスの要素と心配するが、焼山の扱いと、そのジオパークに移る流れがありますが、市はそのような流れを、今後どのように考えていますか。市長、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに焼山入山解除につきましては、いろいろな課題があります。いろんな課題の中で、今まで解除できなかったと思っております。まずは解除をして、状況を知ることが大事だろうという形でさせていただいております。その中においては、この上越森林管理所、または糸魚川地域整備部の皆様方と砂防公園をどうするのかというような、いろいろ今詰めておる段階でございます。

非常にこれにつきましては、いったん解除しますと安全がどうなるという部分もあるわけでございますので、そういったことを考えますと、軽々にはできない部分があるので、まずは安全を1つ前提に考えた中で、どうすれば登山者なり、また工事が。今、砂防事業が入るとるわけでございますので、工事車両とうまくいくのかということもあるわけでありまして、じゃあ工事しなくなってから使えばいいじゃないかということ、工事しなくなると降雪期に入るわけでございますので、何ら意味がなくなるというような部分もあるわけございまして、その辺をどのようにしていくかという現場の具体的な課題、そしてまた、だれがそれを受け持つかというような大きな課題もあるわけでありまして、それを今詰めている段階でありますし、また、それを詰めていかななくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

以上の大変難しい対応をよく聞いております。妙高の入村市長も許可は出したがいいが、整備が完全にできない間に登っていただくのは、大変危険度があるということで聞いております。しかし、大変なことをクリアすることによって、高い評価を得ると思います。本当に熱烈な登山ファンがいますので無理に、安全を確かめなくて解除というか、観光客の誘致といいますが、それを進めなき

やいけません、その危険度をクリアした市町村がたくさんあるんですね。雲仙普賢岳ですか、それらの話を聞いております。

より一層市長に対して、妙高市と連絡として、早い段階で進めていただければ、間違いなくジオパークへ評価にもつながりますし、そのように、これは要望しておきます。市長、よろしくお願ひします。

先ほど課長に答弁していただきました。ちょっと質問が前後するんですけど、地元のマスメディアを駆使し、改めて、あるいは利用させていただく。これ広辞苑では、あがめて大切に扱う、まさにその力を借りて市民により一層、糸魚川ジオパークのその理解度を高める戦術、ジオパーク推進プロジェクトチームがこの手法をどのように位置づけ、そしてまた市は今後どのようにこれを利用して進めていくか、考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

商工観光課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

ジオパークばかりではないということで、観光の関係も含めましてお答えをさせていただきます。

当然、議員おっしゃられるようにマスコミの皆様の協力を得る中で、マスコミを大いに活用するのは非常に重要なことだというふうに我々も認識しております。当然、マスコミの皆さんから協力をいただく中で情報発信をし、いろんな観光、並びにジオパークの状況を随時提供しながら、情報発信をしていただく。マスコミの皆さんとまた連携をしながらやっていくという形が、大変重要だと思っておりますし、今後もその方向で、マスコミの皆さんと連携をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

課長はジオパークだけじゃないと、全くそのとおりですね。

ジオパークを全国へ発信する方法の中でテレビ局の力を借りて、その目的を果たす手法があります。ここに1枚のファクスがあります。国営放送、いわゆるNHKからいただきました。中身は当然、市もご存じだと思います。私も大変しつこく宣伝してきたんですけど、地元のマスメディア、それは地元で利用されれば十分目的は達成できると思います。県内2日間にわたって25分、また全国に向けては2月17日ですか、ほとんど1億人対象で20分間程度流してくださいました。

私はこのような質問を何度も繰り返したんですけど、今後、職員が本気になって何ていいですか、士気いいですか、そのようなことを現在どのように考えていますか。士気を高めていく手法を、職員の。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

商工観光課長（田鹿茂樹君）

お答えを申し上げます。

糸魚川市の情報発信という意味での職員の士気というふうには、お答えをさせていただきたいと思っております。

そういう意味では、市職員全員が糸魚川市のスポークスマンという考え方で取り組んでいただきたいと思いますというふうには思いますし、組織の中では、私が答えるべきではないかもしれませんが、そういう意識を持って職員が糸魚川市の情報発信者ということで、前向きにやっただけならば一番ありがたい。その中では、部課長会議を通じながら、我々も観光関係の情報については適時、部課長の皆さんには提供してまいりたいというふうには考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

ここに1枚のDVDがあります。私はもう詳しく申し上げません。

市長、私が申すまでもなく、どこの市町村でも、どこでも先頭を引っ張るのは2割、様子を見る方々6割、笠原議員さんは7割とおっしゃいましたけど、そしてまた残りの2割は策を出すことなく、ただ批判するのみ。私もいろいろ経験しております。

大変乱暴な表現ですが、市長が今までやってきた努力が実れば、その方々も当然に応援に回ってくれるかと思っております。市長の熱意が一人でも多くの市民の賛同を得、理解を得た。やがて糸魚川市が新幹線開通の追い風を受け、光り輝く地方都市になることを私は願ってやみません。市長も当然同じだと思いますけど、市長、一言そのことについて。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

久保田議員の熱意、本当に感謝申し上げます。

私といたしましても、やはり今、田鹿課長が答弁をさせていただいたように、職員もやはり一丸とならなくてはいけないわけでありまして、職員もやはり今、ジオパークの研修会もやりながらしとるわけですが、まだまだ全員というわけにはいってないんで、全員がやはりすべてそういった我々糸魚川市をPRしていくんだ、そういう気持ちで頑張っていきたいと思っておりますし、先ほどの質問にもお答えさせていただくわけですが、マスコミや報道の皆様方のやはりご協力、また、そういった我々の気持ちをやはり伝えていただいて、全国に情報発信をさせていただきたいということで、いろんなところにも、その情報を提供させていただいてるわけですが、今、本当にありがたいのは、一気にどっと出るわけじゃございませんで、その時期、時期に出していただいておりますので、本当に感謝いたして次第でございます。

これからもマスコミや報道の皆様方には、そういった情報提供をしっかりとっていきたくと思っ

ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

それでは3番目の水産行政に移ります。

水産庁の方針ではソフト対ハードの比率が4割といい、一昨年あたりでは、ソフトの数値をもっと高い方向への指導があると確認しております。市にとっては新潟県の方針にも影響を受けると考えますが、昨年5月、我々清新クラブで視察の岩手県の水産試験場、これは国内トップの放流用稚魚事業が盛んであります。地元漁協関係者負担2割とされているが、新潟県の糸魚川市は5割と聞いておりますが、どう見ても糸魚川市内では何桁も数値が違う事業展開なのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

早水農林水産課長。〔農林水産課長 早水 隆君登壇〕

農林水産課長（早水 隆君）

お答えいたします。

確かに議員が言われるように、新潟県そのものが非常にパーセント的には少ないのが事実でございます。これについては市が独自にどうのこうのじゃなくて、あくまでも補助金を使わせてもらって市が補助をしとるわけでございますが、これを決めるについても県下の全域の漁業関係者が集まっていたいただいて、皆さんで協議しながら決めとるわけございまして、市が特別地元の漁協の皆さんから要望があったものについて予算的に計上しないということございせんもんですから、あくまでも漁協の皆さんと連携をとりながら、皆さんの意見を聞きながら対応しているのが実態でございますので、その辺は確かにパーセントは少ないのは事実でございますけども、そういった皆さんの今までの過去の何十年にわたる放流事業をしながら、今の結果というもの、あるいは要望というものが出るといふふうを考えておりますもんですから、その辺はご理解いただきたいというふうになってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

先ほど4割と申しましたが、事前審査じゃありませんけど、ざっとした計算で0.0875%です、糸魚川市。費用対効果という言葉がございしますが、ニシンが長い間の放流、養殖の補助事業の結果、爆発的な資源回復のニュースを耳にしております。当然、ことしもヒラメ、アワビ、オコゼの放流があると思いますが、放流の予算貧弱のため海洋高校が育てるその稚魚がおらず、水槽の中で金魚を飼育している現実を目の当たりにしますと、本当にこれでいいのかと。何のために施設を遊ばせているのか、そのような疑問が上がってきます。今後、そのようなことがないように。ハードに対しても力を入れることは大変必要だと思います。しかし、もうソフトの数値を改める時代が来とると思います。

それで漁業従事者と後継者不足が深刻であります。漁業に限らず農業も一緒と考えるが、収入があれば、若者たちは幾らでもやる気のある人たちはたくさんおります。過疎対策のこれほど有効手段はないと思いますが、市の考えを教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

渡辺建設産業部長。〔建設産業部長 渡辺和夫君登壇〕

建設産業部長（渡辺和夫君）

放流事業の状況については、先ほど課長が答弁したとおりでございますけれども、ハード対ソフトの比率につきましても、まだまだ日本海の荒波を考えた場合に、漁業者の皆さんの漁港整備に対する要望、熱意というものは非常に強いものがあって、そちらを促進しておる今の状況であるということで、その比率が、今、久保田議員がご指摘されたような実情であるという現状であります。

海洋高校の施設のことでございますけれども、ヒラメ等の放流について、一時仮置き等をさせてもらうような場所にも使わせてはもらっておりますが、その種苗から放流までの間の養殖もしてもらったときもあります。それは学校教育の一環でしていただいておりますけれども、その辺のまた状況について学校側とも教育、あるいは水産振興の状況は今どうなっておるか等々をお聞きしてみないとわからんところもありますが、そういったところをまた学校側に検証してみたいというふうに思っております。

ただ、金魚の話もありましたけれども、これも海洋高校で内水面の立場から金魚を内陸に池をつくって、勉強の一環でしておる時間もあつたやに聞いておりました、そういうものの一環なのかなというふうに先ほどお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（五十嵐健一郎君）

久保田議員。

14番（久保田長門君）

私がなぜその問題といいますが、いつか産官学ということで質問させていただいたわけですが、あまりにも確かにハードに対して部長がおっしゃるように、その気持ちはわかります。しかし、私も僭越ですが水産業についております。地元の方々の中には、もう港の整備はいいって言う方もいます。私は決して港の整備が間違っていると思わないし大事だと思うし、また間違っていない政策だと思っております。

しかし、しつこく言いますけど、あまりにも放流種が少ないために、例えば、ここは新潟県ですけど、相模湾では釣り人が7割が養殖のタイだと言われてますし、そこまでは極端ですけど、私はしつこいんですけど、本当に桁が一桁違うんじゃないかと思っております。もうそういう時代が来たかと思っております。

それで放流、あるいは養殖事業が盛んになれば、当然、管理型の枯渇資源の解消、先ほど申し上げましたが関連の雇用、いわゆる海洋高校の生徒たちも地元就職に大変力が入ってきまして、そのように指摘する議員もたくさんおられます。これは私一人ではありません。本当にそこら辺を産業の中から見方を変えれば雇用も生まれてくるし、本当に水産業につこうという。海洋高校に進んで、そういう考えを持った子供たちが、たった新潟県に1校しかないんですよ、そういう意味でくだい



ようですけど、ソフトの比率を変えていただきたい。それで、再度くだいようですど、妙高市では、今、エビの養殖が盛んなんですよ。できることと、できないことがありますけど、そこら辺をまた考えていただきたい。

それでは最後になりますが、今ほど申し上げたとおり、従来の水産業の中から見方を変えれば、幾らでも当地域の糸魚川の水産業をより活発にできると思います。この2月22日にも農山漁村活性化を目的とした、国レベルの会議が東京でありました。水産庁の長官は、このようなビジョンが地方から上がってこないと言っているそうです。

糸魚川市は県の方針だからという答弁を受け、私は県職員2名と当たりましたが、糸魚川市はだめだという前向きな言葉がいただけなく、責任転嫁といいますが、全国の方針に背を向けて水産界を取り巻く現状を幾ら指摘しても、旧態依然としたソフトの数値を変えなく、大変きつい言い方ですけど、大変立派な漁港もあとわずかで長野県民や群馬県民の釣り堀にでも、また、あるいはヨットハーバーにでもするような予想がされています。生産性が上がらないことには、漁師の方々の力が入らないと思います。本当に真剣に糸魚川市の水産振興を考えているならば、私の意見がよく見えてくるはずだと思います。

大変きつい表現でしたが、本当に水産界のことを思うがゆえに、発言させていただきました。

以上で、私の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

議長（五十嵐健一郎君）

以上で、久保田議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

以上で、一般質問を終結いたします。

本日はこれにて散会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後1時59分 散会

+

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+